

# 幼児における間接的要求の理解に 対する身振り情報の影響

三宅英典<sup>1</sup>・関根和生<sup>2</sup>  
(<sup>1</sup>金城学院大学・<sup>2</sup>早稲田大学)

本研究は、JSPS科研費20K14175の助成を受けたものです

## 目的

**間接的要求**とは、聞き手に向けた**話者の要求内容が発話に明示的に含まれていない頼み方**のことを指す。幼児における間接的要求場面では、保育者が子どもの主体的な活動を促すことを目的に、子供に対して要求内容をあえて発話で明示しない方略がある。Kelly (2001) は、間接的要求に指さし（直示的身振り）が共起することで、幼児の間接的要求の理解を促進することを明らかにしている。本研究では、**身振り自体が何らかの事物や動作を映像的に表現する身振り（映像的身振り）**に着目して、**幼児の間接的要求の理解に及ぼす影響とともに、このような理解に対する幼児の言語能力やコミュニケーション能力との関連**を検討した。

## 方法

年少児25名（平均年齢3歳11ヶ月）、年中児27名（平均年齢5歳0ヶ月）、年長児25名（平均年齢5歳11ヶ月）

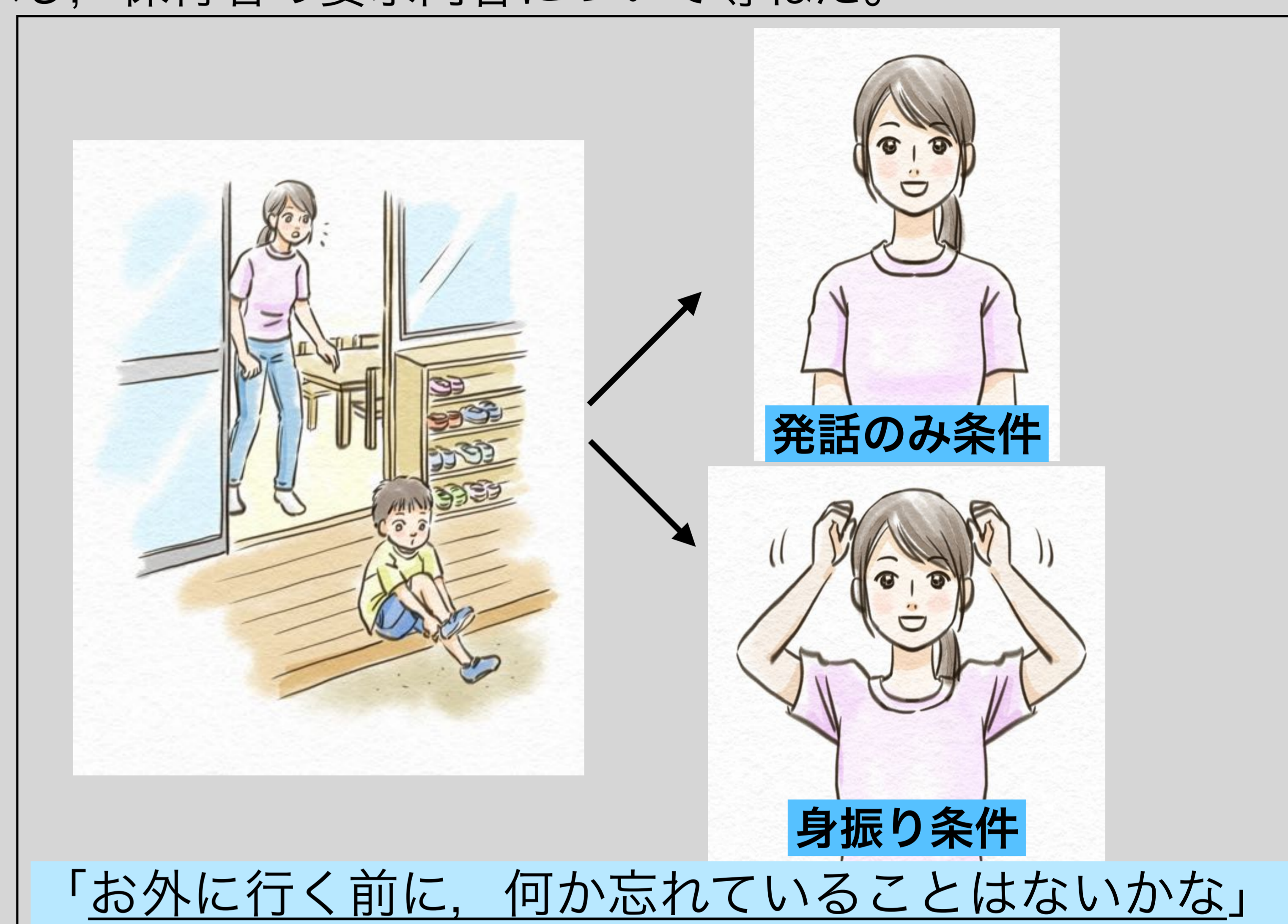
→保育者が幼児に間接的要求を行う**仮想場面**を絵本で提示し、保育者の要求内容について尋ねた。

間接的要求場面（課題）は**8場面（8試行）**

→4試行は**発話のみを提示する発話条件**、残りの4試行は**身振り情報が静止画で伴う身振り条件**

実験は**参加者内要因**で、8つの場面の提示順は固定し、条件の提示順を4つのパターンに分けてカウンターバランスをとった。

**参加児の担任保育者に**、KIDS乳幼児発達スケールtype Cの理解言語、表出言語、対子ども社会性、対成人社会性の4領域について回答を求めた（各16項目、はい・いいえの2件法、「はい」で1点）。



## 結果と考察

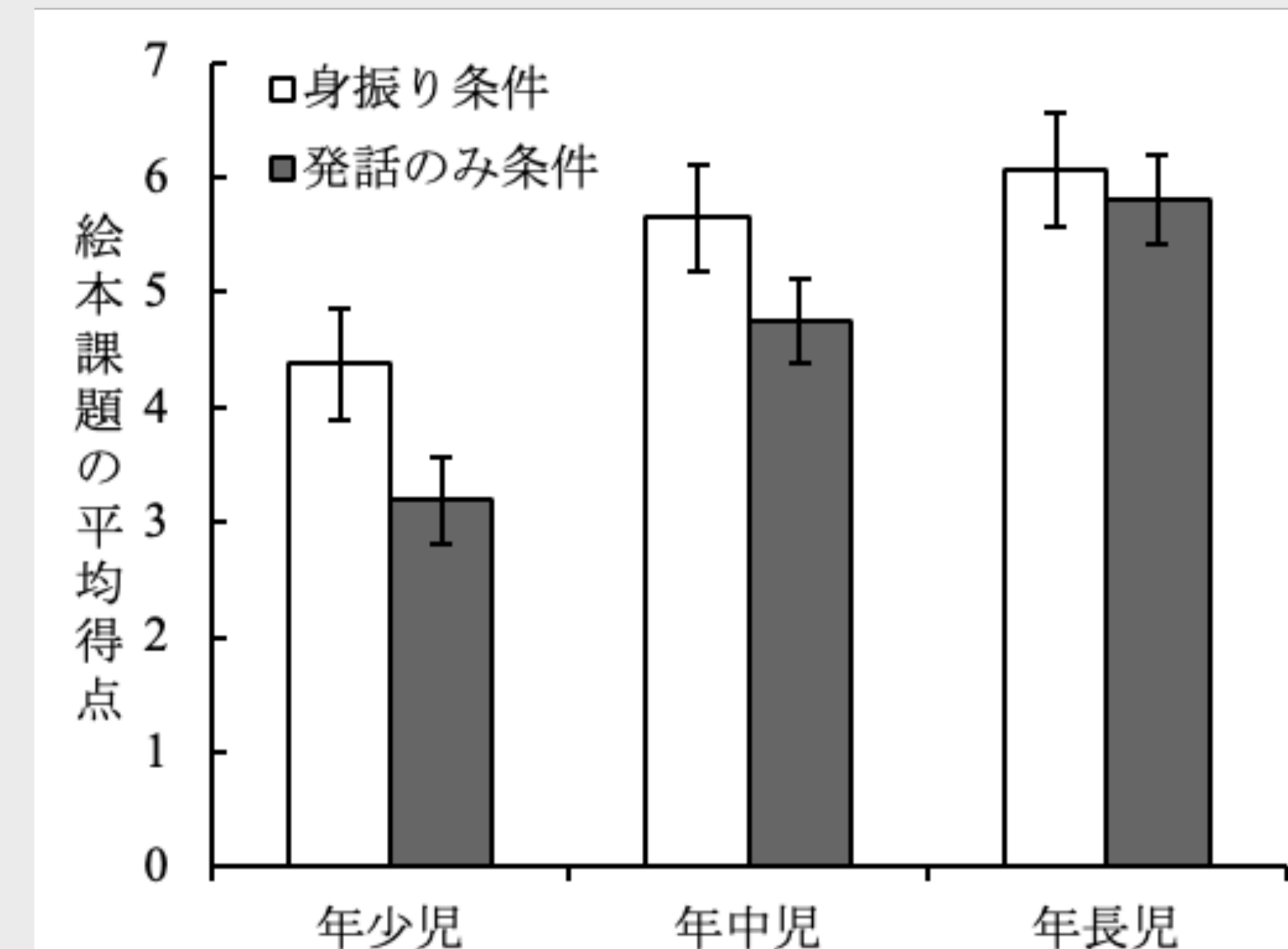


Figure 1 学年と条件別に分けた絵本課題の平均得点

Table 1 学年・絵本課題とKIDSスケールの相関分析

学年	身振り条件	発話のみ条件	理解言語	表出言語	対子ども社会性	対成人社会性
身振り条件	.217 <sup>+</sup>					
発話のみ条件	.516 <sup>**</sup>	.496 <sup>**</sup>				
理解言語	.523 <sup>**</sup>	.109	.310 <sup>**</sup>			
表出言語	.481 <sup>**</sup>	.191	.348 <sup>**</sup>	.828 <sup>**</sup>		
対子ども社会性	.482 <sup>**</sup>	.006	.307 <sup>**</sup>	.756 <sup>**</sup>	.828 <sup>**</sup>	
対成人社会性	.305 <sup>**</sup>	-.021	.091	.632 <sup>**</sup>	.764 <sup>**</sup>	.689 <sup>**</sup>

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$ , <sup>+</sup>  $p < .10$

- ▶ 絵本課題について、**課題の要求内容に言及した回答を2点**、**課題の要求内容とは異なるものの保育の文脈上当てはまる回答を1点**、**それ以外の回答や無回答を0点**とした。
- ▶ 絵本課題の正答数に対して、学年(3学年)×提示条件(2条件)×提示順(4パターン)の三要因分散分析を実施

◎ **提示順×身振りの交互作用**に有意差 ( $F(3,63) = 9.26, p < .05, partial \eta^2 = .07$ )。

→身振り条件においてパターン4の提示順における得点がパターン2より高かった

◎ **学年と提示条件の主効果**がそれぞれ有意 ( $F(2,63) = 8.07, p < .05, partial \eta^2 = .20$ ; ( $F(1,63) = 10.65, p < .05, partial \eta^2 = .14$ ))

→課題の成績が高学年ほど高く、身振り条件が発話のみ条件よりも高かった

間接的要求において映像的身振りの身振り情報が共起することで、幼児は要求内容の理解が促進された。間接的要求の理解には言語理解や言語表出、子ども同士の社会性の発達に関連すると考えられるが、身振り情報が発話表現に加わることで、これらがまだ発達途上の幼児でも、間接的な要求内容の理解が可能になることを示唆した。

## 引用文献

Kelly, S. (2001). Broadening the units of analysis in communication: speech and nonverbal behaviours in pragmatic comprehension. Journal of Child Language, 28, 325-349.